

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4091500498		
法人名	株式会社 あすか介護サービス		
事業所名	グループホーム 三丁目のわが家		
所在地	福岡県大牟田市諏訪町3丁目59番地		
自己評価作成日	令和4年1月21日	評価結果確定日	令和4年5月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アール・ツーエス		
所在地	福岡市南区井尻 4-2-1	TEL:092-589-5680	HP:https://www.r2s.co.jp
訪問調査日	令和4年2月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】(Altキー+enterで改行出来ます)

<p>“一人ひとりの思いを大切に… よりやさしく より遅しく”を法人の信条として、掲げています。ご利用者お一人おひとりの思いを大切にしていくと共に、スタッフ一人ひとりの思い(夢や希望、今こうしたいと思っていること、今感じていること)を大切に、ご利用者に対しては仲間に対しても「よりやさしく」を追求すると共に、自分自身の心の遅しさを育み、人として成長していくことで、より良い支援に繋がることと思えます。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>グループホーム「三丁目のわが家」は閑静な住宅街にある。併設の地域交流施設ではサークル活動や各種会合等が行われ、地域住民との交流に利用者も参加していた。コロナ禍の中、思うような活動は困難だが、大牟田市介護サービス事業者協議会の活動にも参加し、認知症の方への理解を深めていくよう取り組んでいる。近隣に小学校、保育園もあり、運動会、どんど焼き等にも参加していた。近隣の施設とは、職員を派遣する等の交流がある。施設長は大牟田市において開催されている認知症コーディネーター養成研修を修了しており、事業所全体で「パーソンセンタードケア」を常に心がけ、一人一人の思いを大切に、やさしさを追求し人として成長を目指している。今後益々地域福祉の拠点としての役割が期待される事業所である。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	68	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)		

自己評価および外部評価結果				
自己	外部	項目	自己評価	外部評価
			実践状況	実践状況
I. 理念に基づく運営				
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所として目指して行く信条と理念は、徐々に浸透していると思われる。その理念のとおり忠実に実践できているかについては、十分に実践につながっているとは言えない。引き続き法人の信条と理念に基づき実践できるよう努力していくこととする。	理念は施設長、副施設長、職員みんなで考えた。1階、2階の各ユニット内の壁に掲げてある。ミーティング時に全員で唱和し共有している。「パーソンセンタードケア」についてより深く学び、引き続き、法人の信条と理念に基づき実践できるように努力していく。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ここ二年ほど、コロナの影響で地域の行事に参加する機会が激減しているが、感染が和らいだ時期などには、近隣への散歩などの際に挨拶などして地域の方との交流を継続している。	天領校区の「まちづくり協議会」は現在はコミュニティセンターで行われ、「カラオケ、手芸教室、餅つき、草刈り」などを通し、交流が深まった。認知症啓発のために作成された絵本を使って市内の小中学校で認知症理解のための教室に参画している。世界のアルツハイマーデーの9/21頃に例年大牟田市で官民一体となり、行事を行っている。行方者の見守りや捜索を行うために「ほっとあんしんネットワーク模擬訓練」が行われており全国から毎年100人以上の方が視察に見えており、事業所も協働している。コロナ禍の中、思うよう活動はできないができる範囲で交流は継続している。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	例年、大牟田市によって開催される、ほっとあんしんネットワーク模擬訓練の事務局として、まちづくり協議会の実行委員の皆さんと認知症の人の理解と安心・安全のまちづくりの啓発活動を行っているが、コロナの影響で実施できなかった。	
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一回、開催している運営推進会議において、利用者のサービスの状況及び運営の状況等について、報告を行い意見を求め、サービス向上等、運営に活かしている。	運営推進会議には、家族は1~2名、自治会長、安心会議相談員、包括支援センター、福祉課、民生委員などの出席がある。現在、開催は行われていないが、サービスの状況及び運営状況などについて報告を行い、意見をもらい、サービス向上、運営などに活かしている。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	大牟田市の福祉課の職員とつながりを持ち、必要に応じ運営に関する相談や連携を図ると共に、サービスの向上や地域の健康推進事業等にも取り組んでいる。	介護保険の申請は職員が行政の窓口に参加している。コロナの対応として「マスク、防護服、消毒液」などをもらった。来年度に予定している事業所の増築について相談を行った。行政から愛情ねっとというメール機能で、転倒予防教室や初期の物忘れを発見するための脳の健康チェックなどの案内して頂き、地域交流施設で実施している。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人において設置されている身体拘束等適正化委員会において、定期的に会議を行い、職員に身体拘束についての研修を開催し、学びを深めると共に、その意識向上に努めている。	身体拘束等適正化委員会を三か月に1回行っている。スピーチロックの研修も行っており、気が付いた時には、管理者が注意をしたり、職員がお互いに注意をしている。夜間センサーを使用しており、家族には説明し承諾を得ている。「虐待の芽チェックリスト」の記入を毎月実施し、学びを深め、意識向上に努めている。

R4.2自己・外部評価表(グループホーム三丁目のわが家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	「虐待の芽チェックリスト」の記入を毎月実施しており、月に一回真剣に考える機会をつくり、虐待の防止に努めている。		
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人や権利擁護についての研修の機会を提供し、学ぶ機会を作るようにしている。必要に応じ、ご家族に制度について紹介している。	成年後見制度は一人利用している。制度について研修を行い学ぶ機会を設けている。パンフレットも用意しており、制度について利用者家族にも説明している。必要時には包括支援センター、社会福祉協議会などにつなげるようにしている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、契約内容や重要事項説明について、丁寧に説明し、ご理解の上契約していただくようにしている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者の意見を反映させる仕組みとしては、あんしん介護相談員を受け入れ、実施していただいている。多くのご家族様とは、月に一回は面談し、ご意見、ご要望をお聞きするように心がけているが、今年度は、感染症により、その機会が減少している。	毎月1回、あんしん介護相談員を市から派遣してもらい、利用者が思いを訴える機会を設けたり又思いをくみ取ってもらう。家族が料金の支払いや品物を持参した時に、要望、意見等を聞き取るようにしている。日々の様子を、ラインなどで報告をしたり、写真、動画などを送信している。	アンケートの回収率は非常に高く、事業所の理念である本人中心の支援が行き届いている事が、アンケートの内容からうかがえる。現在月1回、請求書とともに事業所内での写真や状況報告をしているとの事。運営推進会議の議事録を一緒に送り事業所の取り組み、次回の運営推進会議の内容などを家族に知らせてみてはどうだろうか。
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回のリーダーミーティング及び地域密着型合同ミーティングの際に、職員の意見や提案を聞く機会を設けている。発言しやすい土壌づくりに努力している。	月1回のリーダーミーティング、合同ミーティングの際に意見、提案を言う機会がある。それ以外にも朝の申し送りに提案するなどいつでも言いやすい環境にある。「肘跳ね上げ式の車いす」を購入してもらい動きやすくなった。臀部に赤みがあり「エアーマット」の購入。便秘気味の時に食物繊維の摂取の相談を行う等、意見をすぐに反映してくれる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者やユニットリーダーは、リーダー研修等に参加し、スキルの向上ややりがいを高める機会を設けている。処遇改善加算を取り入れ、待遇の向上及び職場環境の改善に努めている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	募集・採用にあたって、性別や年齢に関しては、幅広く採用している。「自分自身が幸せではないと良い介護は出来ない」という信念を持ち、職員一人ひとりの自己実現を目指し、共に成長できるように心がけている。	年齢は20歳代から70歳代と幅が広く、男性、女性のバランスも良く、お互いに悩みを相談するなど、職員同士コミュニケーションもよく取れている。休憩場所、休憩時間もある。レクリエーション、ゲーム、コーラス部にいた利用者と一緒に歌を唄う等、それぞれの能力を発揮している。リモートで脳外科による脳の仕組み、初期の認知症等の研修を受けレポートを提出したり、自己研鑽に励み、自己実現を目指し、生き生きと勤務している。	

R4.2自己・外部評価表(グループホーム三丁目のわが家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	法人代表者は、大牟田市が主催する「人権のまちづくり啓発リーダー養成講座」を修了し、社内研修で伝えるようにしている。新入社員研修では、人権教育の一環として、映画「コスモスの咲く日」の視聴の機会をつくっている。	施設長は「人権のまちづくり啓発リーダー養成講座」を修了し、社内研修で伝えている。「パーソンセンタードケア」の理解と実践、「不適切ケア、虐待を起こさない事業所作りを目指して」、「コミュニケーションスキルの醸成」等の研修を行った。新入社員研修では、北九州で作成された「コスモスの咲く日」の視聴の機会を作っている。	
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実践と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月社内研修を開催している。また、管理者やリーダーは、自己啓発やリーダー向けの研修に参加し、学びを深めている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	大牟田市介護サービス事業者協議会に事業所会員として入会しており、リーダーは認知症ライフサポート研究会に個人会員として入会し、認知症介護実践塾に参加している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご利用当初の不安を少しでも軽減できるように、笑顔で、誠心誠意、丁寧に対応することが重要であると思う。初期支援の際は、センター方式D-4 焦点情報に記入し、少しでも早く馴染まれるように努力している。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	止むを得ずグループホームに入居させることを、決断される場合など、家族は、負い目を感じたり、複雑な思いを持っていらっしゃるが多いため、ご家族の思いもしっかりと受け止めるように心がけている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご相談を受けた際に、在宅サービスの利用が適切であるか、施設入所が本当に必要であるか、必要と思われた場合、どのような施設がその方にとって適切であるかなどについて担当のケアマネジャーや地域包括支援センター、その他関係者と慎重に検討し、助言するようにしている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に食事をし、家事をしたり、趣味や外出を共に楽しみながら、人としての関係を深めるように心がけている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の支援が必要な場合や、ご家族が支援した方が良い場合もあることを意識して、ご家族と共に考え支援していくように心がけている。		

R4.2自己・外部評価表(グループホーム三丁目のわが家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	もともとのかかりつけの医療機関に通院したり、行きつけの美容院に行かれるなど馴染みの関係を可能な限り切らないように対応している。	受診対応は、家族のお願いしていたが、コロナの為、今は職員が対応している。行きつけの美容院に行かれる方もいる。知人の訪問もある。ピアノを弾かれる方がキーボードを楽しんだり、生け花、折り紙をするなど今まで行っていた趣味を楽しんでいる。本人がこれまで大切にしてきたことが途切れないように支援に努めている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	コロナ禍であり、工夫も必要であるが、食卓やリビングで利用者同士が居合わせる場面をつくり、必要時は職員が中に入り、互いの関係性を深め、維持できるような配慮を行っている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、その後にご本人が安心して暮らすことができるようご家族との関係性を維持しながら、その後の暮らしが落ち着かれるまで、相談等の支援を続けるようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意思の表出が困難なご利用者に関しては、カンファレンスの場であらゆる視点や携わるスタッフ一人ひとりの感性を尊重し、皆の意見を出し合いパーソンセンタードケアの理念を大切に推察し、ケアマネジメントに活かすようにしている。	入所時は事業所に見えたり、施設長、副施設長が自宅、病院、施設などを訪問する。これまでの人生、暮らし方などを、家族にセンター方式の用紙に記入してもらい、要望、不安なことなどを聞き取る。意思の表出が困難な利用者には、カンファレンスの場で職員一人ひとりの感性を尊重し、意見を出し合い「パーソンセンタードケア」の理念を大切に、意向の把握に努めている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族から、これまでの人生や暮らしぶりなどを、ご家族にセンター方式のシートにご記入頂きこれまでの暮らしについて把握するように心がけている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	初期支援時、または状態変化時において、アセスメントの方法としてセンター方式のD4シート焦点情報(24時間生活変化シート)に記録し、状況の把握に努めている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	少なくとも月に一回以上、ミーティングの機会をつくり、本人及びご家族のご意見も反映できるように心がけている。	初期支援時、状態変化時において、アセスメントの方法として、24時間生活変化シートに記録し、状況の把握に努めている。実施記録とプランは紐づいており、モニタリングにて目標の達成状況を見極め、変化を見逃さないようにする。担当者会議では利用者、家族から意見、要望をもらい、医師、看護師の意見も反映させ、現状に即した介護計画をチームで作成している。	

R4.2自己・外部評価表(グループホーム三丁目のわが家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	本人の言葉がある時には出来るだけ逐語録で記録するように心がけている。日常生活の身体に関わる変化及び認知症等による精神面や行動の変化などから情報分析を行い計画の見直しを行うようにしている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	急病による医療機関受診等の対応はもとより、その日の心身の状況や天候、職員の対応の状況等により、例えば、急にドライブに行ったり、お花を見に行くなど、即時的に実施するなどの支援を行うように努めている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	例年は、地域の行事への参加や、ボランティアの方による演芸を楽しんでいただくなどしているが、現在はコロナ禍であり、直接的な協働はできていない。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	元々のかかりつけの医療機関に通院を希望される方は継続されるように支援し、かかりつけ医を探しておられる場合などにおいては、協力医やその他その方のニーズに合ったところを紹介するようにしている。	元々のかかりつけの医療機関に通院を希望される方は継続されるように支援している。月1～2回訪問歯科。他科受診は家族又は職員が対応している。地域包括ケア・多職種連携のためのコミュニケーションツールMCS(メディカルケーステーション)にて、情報を交換している。施設長、副施設長も看護師の資格を有しており、日々の健康管理及び24時間安心の医療体制が整っている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員とは、情報を共有し連携を図り、協働している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された場合は、適切に治療できられるように必要な情報提供を行うと共に、可能な限り早期に退院できるように医療機関と情報交換を行っている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化された場合や終末期には、様々な条件を整えば可能な限り看取りが行えるように対応することとしている。	契約時に重度化した場合や終末期についての方針の説明をしている。利用者の状態変化時には医師を交えて話し合い、希望に沿った支援を実践できるように努めている。看取りをされた方は2名様おられた。可能な限り看取りが行えるように対応している。職員には看取りの研修を行っている。	

R4.2自己・外部評価表(グループホーム三丁目のわが家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故や急病時の応急手当について社内研修を実施している。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災消火避難訓練は年に2回実施している。火災以外の災害の対応に関しても、マニュアルを作成している。水害等の避難訓練も実施している。	火災消火避難訓練は年2回実施している。消防署からも来てもらったり、近隣の方の参加もあった。令和2年7月には大雨で諏訪川が溢れた。水害の訓練、火災の夜間想定訓練なども行った。備蓄は食料品、水、ガスコンロ、おむつ等がある。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格の尊重、誇りやプライバシーの確保について十分配慮を行うように心がけるように努力しているが、まだまだ十分とは言えず、教育している。	一人ひとりの人格の尊重、誇りやプライバシーの確保について十分配慮を行うように研修を行っている。言葉かけに気が付いたときは、その都度注意をしている。写真などの掲載の同意も家族にもらっている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の希望や思いを関係性を深めながら、尋ねるように心がけている。意思の表出が困難な方については、チームで検討するようにしている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	散歩をしたいと言われても職員体制の関係で実施できないこともあるが、可能な限り対応できるように努力している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服選びを手伝うようにしている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	以前は、お一人おひとりのしたいことやできらるることを探し、可能な限り調理の手伝いや、盛り付け、配膳等に参加していただいていたが、現在、コロナ禍であり、ほとんどできていない。	朝食は事業所で献立、調理を行っている。夕食の副食は外注で、昼食の副食は、小規模多機能ホームの厨房で調理している。青魚等食べられない時は他の献立にする。庭に菜園があり、トマト、キュウリ、ナス、オクラなどを利用者と一緒に収穫し飾りつけを手伝ってもらう。お誕生日には副施設長の手作りのケーキに利用者と一緒に飾りつけを行ない、写真を撮り個人のアルバムに収納し、家族が訪問した時に見てもらい差しあげている。	

R4.2自己・外部評価表(グループホーム三丁目のわが家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	お一人おひとりの習慣、栄養状態、体重の増減、排泄状況、気候による気温や活動状況等を意識し、摂取量の調整を図っている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食前の口腔体操や食後の口腔ケアを、実施していただいております。支援が必要な方は、声掛けや、介助し実施している。訪問歯科も利用している。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	可能な限りトイレでの排泄を継続できるように支援している。	布パンツの方が一名おり、又立ち上がりが困難でベッド上でおむつ交換を行っている方もいる。排泄チェック表にて声かけを行う事で、パッド交換の回数が減った。トイレに誘導し排泄後に「気持ちよかった」と言われる。可能な限りトイレでの排泄を継続できるように支援をしている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の予防に水分を十分に摂っていただき、排泄状況の記録を行い、便秘が続くときは緩下剤や座薬等でコントロールしている。食物繊維や乳酸菌等により、腸内環境の改善も取組み始めた。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴に関して、ご本人の希望の回数や時間帯について、ご希望通りの対応はできていない。入浴時は、可能な限り満足いただけるように心がけている。	入浴は週2回で午前中に一日二人ずつ入ってもらう。拒否があるときは時間を変えたり、人を変えて声かけをしている。入浴時には皮膚観察を行ったり、コミュニケーションの大事な時間としている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中ベッドで休憩される方は、そのようにしていただき、夜間不穏な場合は、話を聞いたり、不穏が落ち着かれるのを待って休んでいただくようにしている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全ての薬の目的や副作用については十分把握できていない。学習できるように心がけている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お一人おひとりの役割や楽しみごとを探し、家事の役割やレクリエーション、創作活動を実施している。		

R4.2自己・外部評価表(グループホーム三丁目のわが家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍であるので、例年のようにはできていないが、通院の支援や近隣への散歩等、可能な限り支援している。	車いす又は徒歩で近隣の公園、小学校沿いの桜を見に行ったり、ワゴン車で三笠神社に梅見物、バラ園、ひまわりなどを見に行った。メロンパンを食べたいとの希望があり、職員がメロンパンを買いに行った。例年のようにはできていないが、可能な限り希望にそって日常的な外出支援は行っていく。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持に関しては、管理できるご利用者には、ご自身で管理して頂き、買物など頼まれた際には、対応している。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたいときはかけていただくように対応している。年賀状を、本人宛に出している。本人宛の手紙は、お渡ししている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居住環境として施設ではなく、普通の家を意識したしつらえになるように心がけている。七夕やクリスマス、お正月など、季節を感じさせる飾り付けも心がけている。	普通の家を意識したしつらえになっており、明るく清潔感にあふれている。空気清浄機、加湿器が設置され、1階と2階はソファなどの配置を変え、趣が異なっている。共同空間の壁には、利用者と一緒に制作したカラフルな折り紙の豆まきの鬼、干支の可愛いトラが飾られ、お雛様も、もうすぐ訪れる春を感じられた。2階は天窓があり午後の明るい光が差し込み、ソファに腰かけ、時代劇のテレビを見て、穏やかな時間が流れていた。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	6名のご利用者であり、ソファでくつろがれる時間と食卓で歓談される時間があり、居室で過ごされることもある。更に居場所の工夫の検討が必要である。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自室には、自宅で愛用されていた家具や調度品を持ち込んでいただき、家族の写真を飾るなど、ご自分の部屋であることを印象付けるように心がけている。ゆっくり自室で過ごされるようにソファなど持ち込まれるように提案している。	素敵な飾りのある本棚、回転する写真立てに飾られた家族の写真などに見守られ、安心しほっとできる空間になっている。使い慣れたタンス、仏壇等も置かれ、それぞれ自分なりの部屋作りをされている。	
		建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所がわかられない方がいらっしやるので、ドアに「トイレ」の表示をするなどしている。居室の戸に名前を表示し、ご自分の部屋がわかるようにしている。		